

1 対象植物の範囲

本基準の対象植物はモウセンゴケ科 (Droseraceae) のハエトリグサ属 (*Dionaea* Ellis) である。

2 特性検定のための栽培方法

(1) 栽培試験方法

ア 栽培方法

作型 露地栽培(雨除け)。

定植 4号素焼き深鉢に定植する。用土は鹿沼土(小粒):軽石(小粒):ピートモス(pH無調整)を1:1:2に混合したものを使用する。

施肥 なし。

遮光 高温期は50%程度の遮光を行う。

イ 供試個体数 15個体。

(2) 栽培及び特性調査の留意点

● 栽培環境について

関東以南の地域であれば、雨除けハウス等の直接雨が当たらない場所で十分生育するので温度管理は必要ない。ただし、高温期(関東地方では7~9月)は寒冷紗等で遮光する必要がある。

● 灌水について

春から晩秋にかけては用土が乾かないように灌水の回数を多くする。冬季は通常の灌水でよい。素焼き深鉢を使用すれば短期間の腰水灌水も可能である。

● 施肥について

ハエトリグサは非常にやせた土壌で生育する植物であり肥料を極端に嫌う。したがって肥料を与えてはならない。

● サンプリングについて

ハエトリグサは古い葉の養分を新しい葉に移して生育するので、枯れ始めた葉を除去したり調査用に葉を採取するとその株は弱り、草勢は非常に悪くなってしまう。栽培期間中の葉の採取は必要最小限にとどめなければならない。

● 葉のタイプについて

(春葉)

ハエトリグサは、低温期には休眠状態になり地上部は小さな葉を3~4枚程度残して越冬し、春になると葉を展開させる。本基準案ではこれを春葉とした。春葉は一般的には夏葉に比べるとやや短めで葉柄の幅が広い。春葉が十分に展開した後に花茎が立ち開花する。

(夏葉)

開花後、株の中心ではなく外周から葉が展開するようになる。この葉は春葉に比べ葉柄が細長く、着生角度も立ち気味になる。これを夏葉とした。

(秋葉)

10月頃になると再び株の中心ではなく外周から葉が展開するようになる。この

葉は夏葉に比べると葉柄が極端に短く、着生角度も地面に這うように展開する。
これを秋葉とした。秋葉は発生するごとに小さくなっていく。

3 特性審査基準(案)

(1) 特性審査基準(案) はえとりぐさ

重要な形質	No	形 質	定義	調査方法	状態または区分	階級	標準品種	備考
草姿	1	草姿	葉の着生状態(角度)	観察	立性 横張性	1 2	ハエトリグサ	
	2	株張り	開花期の株の直径	測定 (cm)	小 中 大	3 5 7	ハエトリグサ	
草丈	3	開花時の草丈	開花期の地際から最頂部までの高さ(自然高)	測定 (cm)	低 中 高	3 5 7	ハエトリグサ	
葉の形状	4	春葉の捕虫葉の長さ	開花期の最大葉の捕虫葉の長さ	測定 (cm) 図1	短 中 長	3 5 7	ハエトリグサ	
	5	春葉の捕虫葉の幅	開花期の最大葉の捕虫葉裂片の幅	測定 (cm) 図1	狭 中 広	3 5 7	ハエトリグサ	
	6	春葉の捕虫葉の開閉度	全開状態の捕虫葉の左右の裂片がなす角度	測定 (度) 図1	小 中 大	3 5 7		60度 90度 120度
	7	春葉の捕虫葉のアントシアニン着色の程度	開花期の成熟した捕虫葉の内面のアントシアニン着色の程度	観察	無又は極弱 弱 中 強 極強	1 3 5 7 9	ハエトリグサ 赤い竜	
	8	春葉の捕虫葉の歯の形	開花期の成熟した捕虫葉の歯の形	観察	針状 歯状 重鋸歯状 その他	1 2 3 9	ハエトリグサ	
	9	春葉の捕虫葉の歯の長さ	開花期の成熟した捕虫葉の歯の長さ	測定 (mm) 図1	短 中 長	3 5 7	ハエトリグサ	
	10	春葉の葉柄の長さ	開花期の最大葉の葉柄の長さ	測定 (cm) 図1	短 中 長	3 5 7	ハエトリグサ	
	11	春葉の葉柄の幅	開花期の最大葉の葉柄の最大幅	測定 (cm) 図1	狭 中 広	3 5 7	ハエトリグサ	
	12	春葉の葉柄の内面の色	開花期の最大葉の葉柄内面の色	観察	淡緑 緑 濃緑 褐	1 2 3 4	ハエトリグサ 赤い竜	
	13	春葉の葉柄のアントシアニン着色の程度 (春葉の葉柄の内面の色が褐色の品種を除く)	開花期の最大葉の葉柄のアントシアニン着色の程度	観察	無又は極弱 弱 中 強 極強	1 3 5 7 9	ハエトリグサ	
	14	春葉の感覚毛の数	捕虫葉裂片の感覚毛の数	測定 (本)	3本 4本以上	1 2	ハエトリグサ	
	15	夏葉の葉柄の長さ	夏期に発生する最大葉の葉柄の長さ	測定 (cm)	短 中 長	3 5 7	ハエトリグサ	

重要な形質	No	形 質	定 義	調査 方法	状態または 区分	階 級	標準品種	備考
	16	夏葉の葉柄の幅	夏期に発生する最大葉の葉柄の幅	測定 (cm)	狭 中 広	3 5 7	ハエトリグサ	
葉の形状	17	秋葉の捕虫葉のアントシアニン着色の程度	秋期の成熟した捕虫葉の内面のアントシアニン着色の程度	観察	無又は極弱 弱 中 強 極強	1 3 5 7 9	ハエトリグサ	
	18	秋葉の葉柄の波打ちの程度	秋期の成熟した葉柄の波打ちの程度	観察	無又は極弱 弱 中 強 極強	1 3 5 7 9	ハエトリグサ	
	19	花の大きさ	柱頭が開いた時の花の直径	測定 (mm)	小 中 大	3 5 7	ハエトリグサ	
花の形状	20	花弁の形	花弁の形	観察	倒卵形 楕円形 卵形 円形	1 2 3 4		
	21	花弁の長さ	花弁の長さ	測定 (mm)	短 中 長	3 5 7	ハエトリグサ	
	22	花弁の幅	花弁の幅	測定 (mm)	狭 中 広	3 5 7	ハエトリグサ	
	23	花弁の複色の有無	花弁内面の複色の有無	観察	無 有	1 9	ハエトリグサ	
	24	花弁の色	花弁内面の主な色	測定	RHSカラー チャートの色 票番号による			
	25	花弁の複色 (複色の品種に限る)	花弁内面の2次的な色	測定	RHSカラー チャートの色 票番号による			
	26	小花柄の長さ	開花期の最長の小花柄の長さ	測定 (mm) 図2	短 中 長	3 5 7	ハエトリグサ	
	27	1花茎当たりの花数	最も多く花をつけた花茎1本当たりの花数 (既開花・花蕾を含む)	測定 (個)	少 中 多	3 5 7		~2 4~5 8~11
	28	花茎の太さ	最長花茎の中間部の太さ	測定 (mm) 図2	細 中 太	3 5 7	ハエトリグサ	
	29	花茎の長さ	最長花茎の長さ	測定 (cm) 図2	短 中 長	3 5 7	ハエトリグサ	
	30	花茎のアントシアニン着色の有無	花茎のアントシアニン着色の有無	観察	無 有	1 9		
早晩性	31	開花の早晩	第1花が開花する時期の早晩	観察	早 中 晩	3 5 7	ハエトリグサ	

(2) 特性審査基準(案)参考図

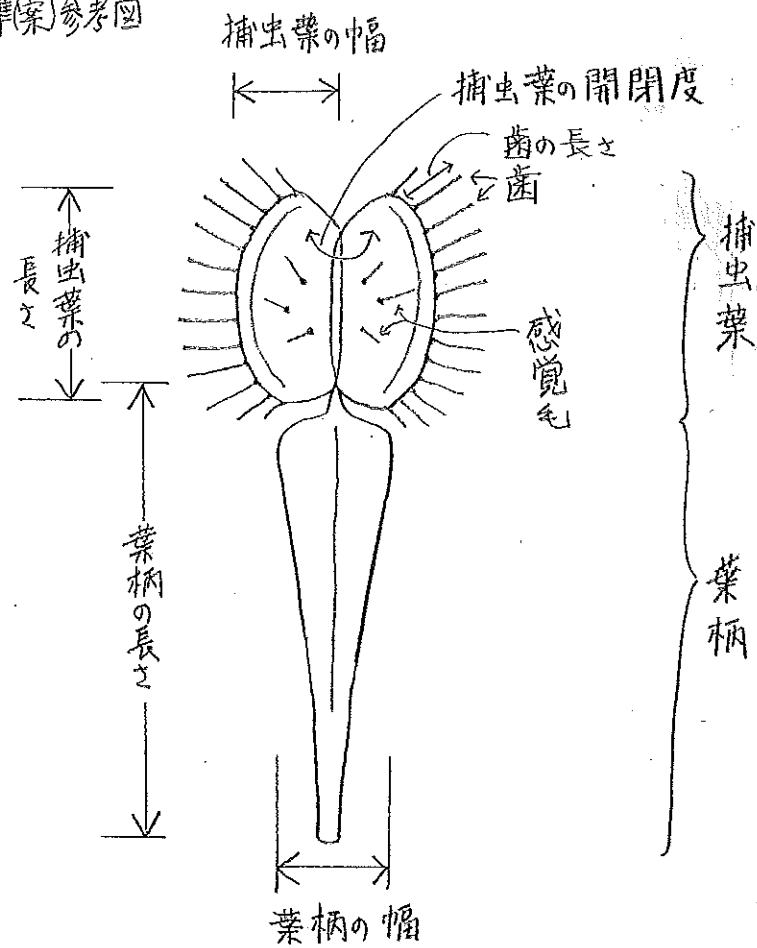


図1 葉 (形質 4, 5, 6, 9, 10, 11)

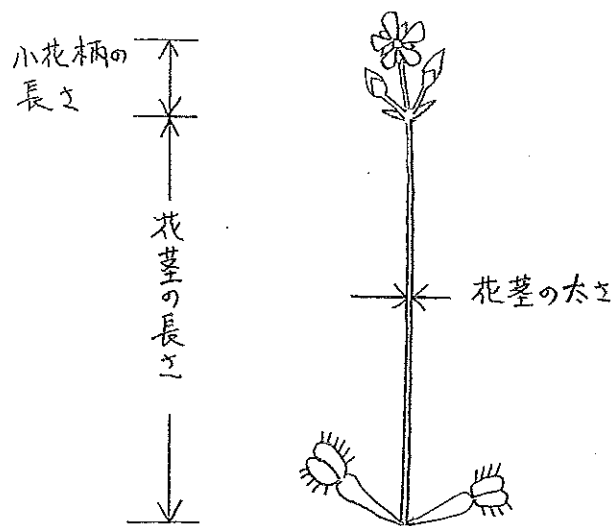


図2 花茎 (形質 26, 28, 29)